

全道展機関紙“ZEN”第15号 昭和60年8月25日発行
 発行所 全道美術協会 事務局 〒061-01 札幌市豊平区清田2-1-5-6
 久守昭嘉 011-882-3384
 印刷 中西印刷株式会社 011-781-7501
 編集委員 青木 淳子 大地 康雄 斎藤 洪人
 坂口 清一 藤島 清士 小野寺紀子
 佐藤 靖

全道展機関紙

NO.15



40周年記念全道展入選作品寸評

40周年記念全道展絵画部審査 市民ギャラリー 6/14

審査所感

総合・絵画部審査委員長 谷口一芳

会員 谷口一芳

(総合)

今年は四〇周年記念展ということで、伝統の重みと、この節目をいかに充実した魅力のある展覧会にして、明日につなぐべきか、会の将来展望と審査方針について活発な論議からすすめられた。

今日の美術界は多様な展開で、新しい表現、価値観など認識も様々で流動的である。しかし、審査はあらゆる傾向、様式など自由に造形作品として創造性に富むもの、個性的なもの、たとえ未熟でも将来性を期待できるものなど、多くの新人を迎えていたい方向で各部門ともすんだ。

ただ、展示会場のスペースは入选数を制限、結果として厳しくなり、総搬入数は前年を上回る一、二四七点で、入选は二五六点(二〇%)という状態になつた。

(絵画)

六本木祐司「無題2」ユニークな印象を買う。深刻ぶりには無頓着に、ユーモラスに自分を押し出したので、堂々闊歩がよい。次作期待。

土塙善範「ひとびとI」群像のまわりに感心、訴えが弱いのは密度や焦点の問題。無駄な描線整理、造形美要素追求が必要と思う。

石塚綱「青い静物」深い静かさの中からの暖かい心情にひかれる。芸術は自己変革の連続であると人は言う。安住せず前進を期待す。

斎藤嗣火「漢II」広さは感ずるが構成面に難度が高い。暗い内容表現意图よりも、悲愴感希薄時の作品に、絵画迫力があつたと思う。

矢下瑛子「幕あい」密度も高くな

(絵画部門)

九七二点の中から一四四点の入选(一四・八%)は、大変厳しいものになった。それだけによい作品を飾ることができたが、各人の選(一四・八%)は、大変厳しいものになった。それだけによい作品を飾ることができたが、各人の

にはどう映じたことか。

具象、抽象を問わず、個性豊かなもの、生き生きした新鮮なものには目を輝かせ、野心作には賛否激論をたかねるなど、一点たりとも見過せずにすすめられた。

十分に見えたえる心象的、知的構成の中から受賞作品が選ばれたのは当然である。単なる事物、事象の再現でなく或るレベルに達し、可もなく不可もなしの常連が多勢いる。この安住の世界こそ大成への道をさまたげることと思う。

また、いまいちの作品が三分の一程度あり素朴さに好感がもてるも、大きな夢がなく今後に期待と

り色調や構成も安定してきたが、響いてくるものが弱い、前々回頃の造形エネルギー再現を期待す。

上田幸「自我」色調よく描き込ん

不安を感じます。

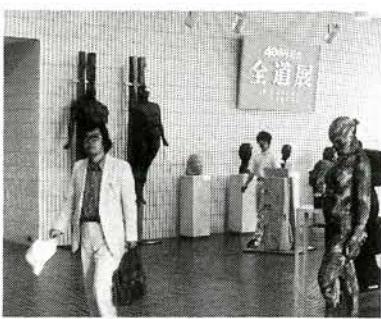
今年は三〇名からの初入選があるので、入選者数は例年と差があまりない、これは再入選を果せなかつた同数程度が落選しているのだ。例年これが繰返されているのは入落線上の人々が沢山にいることを物語っている。

これは作画態度に問題があるのが、外交辞令に乗つて展覧会に合せる作画づくり、デッサン不足から、表現意図の不明さ、借り物に終始してしまうなどの安易さに至るのではないか。

現代性の見識のもと、何かを見するため、失敗をおそれずにすみれば未知なるものに達し、破壊と構築の一生なれば、うちなる変革の行為こそ大いなる展開にむすびつくであろうと信ずる。

でいて迫力あり。反面無駄な力がみなぎり平板となつて。造形美の焦点化やリズム感等大事に。新田淑恵「春を待つII」描画力の高い作家と思う。背景建物デフォルメも効果的。人物ボーズは識者の直視不能な程酷と思うのだが?

堀川勉「楽しく美しかった日々」技法偏向、マンナリ化で、感動的響きが薄れている。天惠センスを大胆素朴に打ち出してほしい。尾崎洋子「語り」意外に重厚な絵作り、抑制的効いた色調や構成から、奥深い豊かさを感じる。作品



るかによって、もっと深まると思うし美しいものになるかも、ただし個性的なよさは大切にしてほしい。藤田博子「パパ・ママ・バイバイ」よく、じっくり描いている。人物の組合せの美しさがすばらしい。色調もよく、力点のおき方に工夫あってもよいかも、平均した力にもつと変化があつても、佐久間留美子「光」光の美しさが、



中心部だけでなくもう少し構成的でありたい。夫々の物の実力と全体的な絵としてのうつたえが意図的でありたい。安木尚博「PO SEーー(群)」色調もよく、フォルムも美しい。上品に中心部にかたまり過ぎた面もあり、もう少し広がりがあつてもよいと思う。来年の大作を期待したいもの。

(評) 米谷 哲夫

高縁晶子「浜への風景」人々の重さなりに求心的な構築性を感じるが明るく塗りこめられた海に対して今少しその強さを望みたい。岡田知之「風景(冬)」俯瞰図のように構図は面白いが細密な筆使いと重い空のマチエール、屋根、山の色等につながりがほしい。波田道則「娘と母」二人の女性を個性的に描き分け追求した画面は立体的にすぎないが右人体下半身に無理な不自然さを感じる。椿谷れい子「異立ち(E)」単純化された形が構成の中にとけこんで画面に無駄がないが色がぶくて弱い。

大友和子「樂を奏でる漁婦」獎励



賞少々荒さは残るが縱をいっぱいに使い切った画面は色と共に強く、その層に扱いの面白さを見るが白い人と牛は浮き上つていて惜しい。獢場亮子「人と像一碑(B)」トルソとしやがむ人二人、一体となつた画面は色の分量配置に類型を感じるがえのぐの扱いは美しい。中村静枝「ティータイム」生活の一瞬をテーマに色を自由に駆使した画面はくつたくがなく楽しい。女性らしい色の選択、更に洗練されることを期待したい。三浦弓子「雨の日」青い基調色でその叙情をういた破綻もなく無難に仕上げているが少々趣味的な甘さだけが残つて物足りない。佐藤説庫「おんな(五月)」画面いっぱいに広がる人体、大胆な構図、破綻もあるが思い切りぶつかっている意気込みを認めた。

(評) 坂原 チ工
藤井高志「森の神話」新会友細密

なマチエールに奥行きがあり幻想的な憂うつ感が描き込まれて完成度は高いが描写的遊びが優先して面構成で鋭い神経を感じさせる佳作。道添宗敬「室内の人間(II)」二人の人物の実在感は出たと思うが、まわりを取りまく壁面空間の緊張感が乏しくなっているのが残念、百弓ぐらいで小さければ背景が處理できる力のある作家と思う。

渡辺通子「ふたりいる室内」デヴァンカがしっかりとといて人物の組み合わせによる構図や量感が安定している。ハーフトーンの色調も品があり表情もよい。おさえ方がもう少し縮ればと思う。渡辺貞之「ある風景(A)」全道展協会賞、人体がアーバ状にベッドと融合されたフォルムが、暗黒色と原色の混沌とした深い色調によく対応して無言の喰りがいつまでも湧き出る訴求力の優れた作品。

梅津 薫「透過する風景・午」獎

励賞。团地住いの母子像を虚構的な画面構成でまとめ、強烈な色彩と意志によって現代社会へのアピールが歯切れよく出ている。女性の描写がもう一步。下田徹「追つたビンとテーブルの直線的な画面構成で鋭い神経を感じさせる佳作。道添宗敬「室内の人間(II)」の描写がもう一步。下田徹「追憶(III)」自然と廃車の対比を緑青のモノトーンと怪奇な空間で風刺したユニークな作品。軽い空間があつてもよかつたのでは。佐久間俊雄「夜」床の奥行きの描写が秀れている。日常の生活感を表わす諸々の配置や質感も明快ですが、それ以外の要素がほとんどない。鈴木昭「坂道をのぼる家族」全く、てらいのない卒直さで描きたいと思うテーマを意のままに描写した誠実さが伝わり、童画風な生きのよい作品に好感が持てる。

佐々木治「二匹のカスベと静物」思い切った良い新鮮な感じがよいし迫力もあるが、華々しい色彩もつと抑制されたトーンの整理をして造形の思索を探究された。二部静世「人々」飢えた人たちの群れだろうか真中の母子以外の人

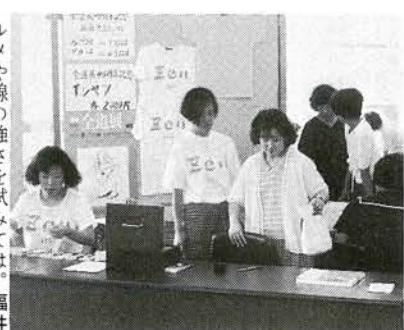


物が皆一樣でせつかくの作者の意図したものが稀薄になってしまつた。西辻恵三「とり」キャンバスにはりついたようなとどりに迫力を感じじるが空間の処理が粗雑になつた渡辺嘉之「北辺」一つ一つ大切な石を丹念に描くことによって哀感を譜いたかった心情が伝わるが、遠近の距離が描けていないので、石だけが目立つてしまつた。坂口美津雄「懷古」波、モツコ、浮玉などを配した象徴的な作品だが、画面の構成をもう少し工夫したら

(譯) 青木淳子
伊藤勝美「域の構図——」不思
義な色や形の奥にあるナマの声
を感じる。声のひびきがもう一つ
ほしい。津里明子「窓辺I」まじ
めな態度を賞讃する。作品として
みるともうひとつの歌いあげるもの
が弱い。どこかマチエール等をか
えてみるのもよい。市川洋一「牛
雲A—74」かなり手なれた表現で
細かいマチエールに神経を配つて
いるのは賛成だが少し重い、大財
に抜けてみては。米沢史子「残船
A」気持のなごむ色だが逆に絵
の弱さにもなる。船の形をデフォ

がいたかも知れぬ。鳥取扇子、春の香り、
くすくすと笑う地肌がが先に立ち
いるが、今回は思い入れがち過ぎて緊張感が欠けたようだ。**加藤博**「博物館(冬)」
にまじめに一生けんめいに描かれた
た作品、遠近、空間の処理などこ
れからが勉強だが、じつと見てい
ると魅きつけられる好きな作品だ
った。

作者の訴えがもつと強く表現出来たのではないだろうか。安部昭太「崖のある風景」強い線と色彩で描かれているが空と陸との関係があいまいなので画面を弱めている。中川真紀美「椅子と牛骨」全体に薄いグレーで描かれ柔かさを感じるがもの描写が甘い。牛骨の位置もおざなりになつたよう思う。藤林暉子「若者たち」無気力な表情でたむろしている若者たちの様子がよく出ているが人物以外の他の部分の書き方が乱暴なのでいいに。山形和子「商う人」画面いっぱいに描かれた人物、野菜など暖かい作者の心が伝わる作品。もう少し大きなキヤンバスでもよ



(評) 長谷川忠男

高橋永実子「蝶の空間」――思いきり想像の羽を抜けで描いた百五十号の大作。不気味な雰囲気を漂わせて、生の饗宴をうたう。その妖しい魅力に賞賛の声も出た。ただし画面下の空間表現に疑問が残る。長尾宇多子「ふたり」よい感覺を持つている人だと思う。対象の実像を確かめようとする意図はわかるのだが、色彩が余りに散逸しすぎではないだろうか。構図上では安定していて賛成できる点が多い。大平弥生「風景」ぐいぐいと力強い筆触で、画面を練り上げ、構築しようとする制作態度がうかがえて好感。空の処理にやや難点が見えた。成田勇吉「黄昏馬房」ここ数年、馬の群れとそれに関わる人物との構成をテーマに追求してきた人。実直な制作姿勢の中に、馬に寄せる愛情が偲ばれる。タッチとさまざまに色彩が響き合った、感じの良い作品である。かと思う。小林和子「ラ・パロマ」流れるように、時にはズミをつけ心温まる作品である。しかし手前の人間の処理について工夫が必要だ。今以上に色彩がひきしめ合い、左実すれば、フォルムが決まり、内容も充実する様に思われる。棚橋永治「室内風景（割れた鏡）」ここ数年、室内の情況描写を手がけてきた人。石膏像の背後に鏡をあてがい、同一視点から対象の面貌を捉えようとの意図で表現された。光を受けた卓上や、構成に神経を通わせて、落ち着いた感じの作品。鹿野麗子「赤い力」――極めて日常的な場面での、一瞬の映像を忠実に再現しようとしているかの様である。それにしても、ぶら下つた一本のひも、ざっくり



卷之三

A detailed line drawing of a botanical structure, possibly a root system or a young stem. It features a central vertical axis with two prominent, slightly curved lateral extensions on either side, creating a symmetrical, branching appearance.

高橋永実子「蝶の空間」――思いきり想像の羽を抜けで描いた百五十号の大作。不気味な雰囲気を漂わせて、生の饗宴をうたう。その妖しい魅力に賞賛の声も出た。ただし画面下の空間表現に疑問が残る。長尾宇多子「ふたり」よい感覺を持つている人だと思う。対象の実像を確かめようとする意図はわかるのだが、色彩が余りに散逸しすぎではないだろうか。構図上では安定していて賛成できる点が多い。大平弥生「風景」ぐいぐいと力強い筆触で、画面を練り上げ、構築しようとする制作態度がうかがえて好感。空の処理にやや難点が見えた。成田勇吉「黄昏馬房」ここ数年、馬の群れとそれに関わる人物との構成をテーマに追求してきた人。実直な制作姿勢の中に、馬に寄せる愛情が偲ばれる。タッチとさまざまに色彩が響き合った、感じの良い作品である。かと思う。小林和子「ラ・パロマ」流れるように、時にはズミをつけ心温まる作品である。しかし手前の人間の処理について工夫が必要だ。今以上に色彩がひきしめ合い、左実すれば、フォルムが決まり、内容も充実する様に思われる。棚橋永治「室内風景（割れた鏡）」ここ数年、室内の情況描写を手がけてきた人。石膏像の背後に鏡をあてがい、同一視点から対象の面貌を捉えようとの意図で表現された。光を受けた卓上や、構成に神経を通わせて、落ち着いた感じの作品。鹿野麗子「赤い力」――極めて日常的な場面での、一瞬の映像を忠実に再現しようとしているかの様である。それにしても、ぶら下つた一本のひも、ざっくり

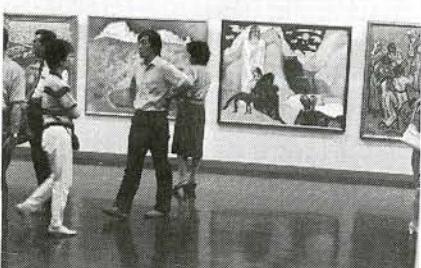


船川照枝「もろもろの」作者の中にあるもろもろのイメージを直率にぶつけた感じ、粗雑さは気にならぬもの。それが魅力。尾沢和子「静物A」構成力もあり、やわらかい味わいのある作品、今一步の押し出しがあれば……。鳥本淳子「海の見える部屋」安易に仕上つた感じが気になるが、ねらいはよいと思う。北村益子「草上II」絵づくりのうまさが絵を軽くしていく。内面的なもの表現も考へて見て下さい。神保房子「作品I」「明快な作品だが、その割り切りのよさが、逆に生硬さにもつながると思うが……。齊藤虎矢子「landscape-of the Jain」描ける人だ、自由にやって下さい。歩進を期待します。宮下淳「行くあてのない者達」難然とした感じは色彩の分配に問題があつたのか、図録のモノクロではよくまとまつてゐる。吉川三紀「閉ざされた空間にて」よく描けていますが、絵画的説得力に今ひとつ……。原田恭子「開拓地の人」描ける人のようだ

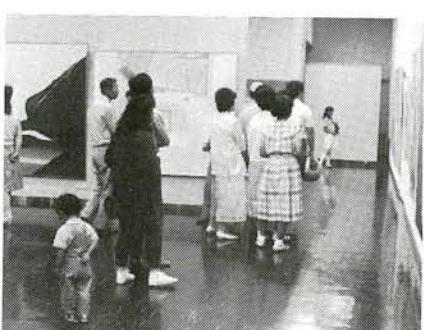
が、その要領のよさにたよりすぐりたきらいはある。上部は少し粗雑になつてはいないか。後藤敬子「楽器と人形など」少し雑然としているが、それなりの面白さもむべではないが、今少し整理も考えて見てはどうか。

泰弘「少女と犬」昨年の作品類似した今回の作品である。モーフは同じでもいいからもつと化のある絵が欲しい。技術だけ走らぬ事。鈴木康子「湖にて」、物なのか、湖が主なのか焦点が味技術的に幼稚だが素直さを買千葉正紀「アトリエ」垂直に構成された静物……物質感がく出ている。色調も新鮮でよい。垂直は、兎角画面を冷たくするら色がでなければ曲線的な物を作われれば暖味が出るだろう。矢元一郎「運動場」道新賞、昨年のベーシック風から一転して自分のものとした今回は一段と磨きのかかる作。人物一人一人のボーラーに変化を建て物左に重点を、おいた掛け図など計算された佳作中の佳作。平野芳典「自転車に跨がる人」獎賛賞、半抽象の白を基調にした画面構成で奥行も感じます。今後樂んでみな作家である。

めている。白の扱いにいま一つ注意を。粉っぽさが気になります。中村久美子「草の中で眠る」前面に草・中景に眠る人物。作者の卒直な意図は読めるがそこまで説明が必要かどうか。画面を二分する樹など構成面にも一考を! 紺谷博樹「泌」白の中の黒い線がリリカルなりズムを奏でて快よい。心象面の磨きと空間意識いかんでは飛躍も期待されよう。佐藤フサ子「室内スケッチ」ブラック風な色調が二人の人物のアンニュイな雰囲気をよく表現していく面白い。ちよつと粗さが目立ちます。茂呂理子「誰そ彼・人達」流動感があるコンボジションを色彩に独自性があつて味わい深いよさがある。山口一子「静物の中の風景B」透明なイメージ・マチエールにも細かい氣配りが今後らしくて安らぐが、逆にこの辺りが今後の展開の鍵で、あるいは。峰律子「母子像A」確かなデッサン力を感じる。子供の表情、動きに反し母親の固い表情は生きる不安感か、はまた愛の表現



「作品I」白とブルーで
大胆な構図をうまくまと



山口一子「静物の中の風景B」透
明なイメージ・マチエールにも細
かい気配りが感じられて安らぐが、
逆にこの辺りが今後の展開の鍵で、5
もあるう。峰律子「母子像A」確
かなデッサン力を感じる。子供の
表情、動きに反し母親の固い表情
は生きる不安感か、はたまた愛の



欠如か? 福井バク「鳥と人」佳作賞、未知数ながら自己のフォルムを見出した気配がある。若さのエネルギーを爆発させてGO!!金沢実「卓上静物I」新会友・抑制的効いた色彩と巧みなマチエール。やわらかさの中に造形的な厳しさもひそませた佳作。酒井俊行「シースケイブ」新会友、焦げた砂色のトーンが美しい。遠近法を使つた人物の構成も面白く、珍らしくスケールを感じさせる作品。

(評) 竹岡 羊子
加納和美「廃船の色彩」統一されたブルー調の色彩が美しく地塗りが生きている。ポイントを中心ハイライトを明確にしては。

板谷論使「室内1985」構成、撮写共にしつかりしていく将来が楽しみ、メインを生かすべく画面づくりに専念しては。

池田緑「アリスの風景85」隅々に「幕の陰A」画面から受けるメ

白の扱い方でメインがもつと生きるのではないか。今西直人「牛と人B」アクションを感じる流れは躍動していくのがマチエールが散漫な感じが惜しい。高木多美子「女と魚」画面から溢れる迫力は見もの、力点を中心バランスを追求することを考えると広がりが出てくるのでは。

横塚順子「家族A(ひまご誕生)」画面構成に多少の難点はあるがぐいぐい描く絵筆の中にペーススを感じる。虚のバランスに一考を。岡野修己「倉庫裏」マチエールに凝るものいいがややもすると自己陶酔のリスクがある。もっと表面に強く訴えて欲しい。三沢邦子「にちようび」自由奔放な表現は迫力があるが、少し荒っぽ過ぎはしないか。ベースをしつかり描くとよくなる。川村淳智「風景VI」抽象化した心象風景で色の響き合

いもよきれいだ。今一つ主張を絞ると答えが明快になると思うがどうか。深谷栄樹「浜風景(秋)」余分なところに不要なマチエールが気になるが、浜の香りがして好感。富田伸一「ある日2」なかなかモダンで吹きぬける心地良さを持っている。全体的に柔らかない

池田征史「わらべ詩No.2」毎年力量溢れる巧みな描写で楽しみな作品だが、何かマンネリで新鮮味に欠ける。リスクを怖れず一つ作家のハートを思いつき表現して欲しい。期待できる作品。

(評) 大地 康雄
越谷賢一「SWITCH-ON」

版画部では少ないユニーラクサを買おう。印象が稀薄にならぬ画面構成が必要と思う。瀬戸節子「遊泳」いつもの都会的な印象とは別な題材への取り組みの意欲に好感が持てる。甘さがうすらいのは前進とみる。美水などか「雨のパドック」題材のおもしろさもあることながら、画面構成がしつかりしている。佳作賞は当然であろう。干場良光「激-46」センスの良さと技法の巧みさで見せる作者は具象的な表現にも関心があるのでないだろうか。今後が期待される。

和田裕子「白い家」構図も色彩も安定して美しい。作者は現在のスタイルを打ち破ろうとしているの

ランコリーな様相は好感持てる。

更に力のバランスを考えると良くなる。中島巖「地」色の響きがよくデッサンもしりかりした力作、

審査所感

版画部審査委員長 会員 尾崎志郎

員

尾崎志郎

-

ではないだろうか。その動きも感じられる。西窪永全「冬の釣路温原」手がたい印象、荒涼とした画面の白が効果的。木版画のおもしろさと効果を計算できる。力量がある。岡本早百合「Air mail」もっと単純素直な技法でいいと思う。画面処理にもっと工夫が大切迫る力が異なると思う。

(評) 手島圭三郎

宝賀寿子「TABLAをたたく男」毎年大作を出品し意欲的だがもっと絵としての魅力が欲しい。すぐやゆみ「望郷」パロディ音楽が聞こえてくるようなさわやかな作品がある。もっと個性的な表現が欲しい。佐藤まゆみ「夢の園」たんねんに表現した努力を買う。もつと深い心の表現を期待する。土門絵美「エクササイズ」自由奔放な表現がこの人の持ち味だろう。への道」時間かけてじっくり表現してはいるがもっと造型力をつけて欲しい。三寺良司「玉葱を運ぶ少女」たんねんに表現している努力は認めるがもっと独自性が欲しい。村井杏子「憧憬」おおらかで力強いがもっと計算された表現技術が欲しい。小池真理子「Mondo de dos」ボエジーのあらわす作品だが造型的な力強さが欲しい。

(評) 渋谷栄一
原島典子「ピエロ人形」奨励賞、まずはおめでとう。昨年の物慣れたまともな構図よりも今回の不安感のある構想をよくまとめた。技術的にも水準以上。杉浦篤子「大地の歌」「土壤・宇宙の様な描写が繁雑の感じがするが、上部黒下

部白の空間処理が柔らかく効果ある。西窪永全「冬の釣路温原」手がたい印象、荒涼とした画面の白が効果的。木版画のおもしろさと効果を計算できる。力量がある。岡本早百合「Air mail」もっと単純素直な技法でいいと思う。画面処理にもっと工夫が大切迫る力が異なると思う。

(評) 平塙昭夫

「Aの音」面白いが台風の目のようないぬと木の葉の渦巻きに一工夫、刷りの効果が良くなないので色感も乏しい。意外な発想を開拓する作者で楽しめます。平塙昭夫「朴」素直であるし描写力もあるが写生にとらわれすぎて面白くなくして

(評) 岡本早百合

「街角の番人」大きな木をよくまとめているが前の棚と柱はない。うが絵を大きくみせるのではないだろうか。色彩も弱い、色濃く鮮明になると効果倍増です。才田光敏「初冬の勇払」色彩に変化を雪原も單調である。あいている版画を活用して調子をだすと固さがとまります。構図もよい。来年期待します。玉村和也「昇仙峠・覚円峰」前林から後林に移るのに一工夫ほしいが、林の処理が大胆で面白い。

(評) 藤島清士

富沢一代「記念写真」猫の一匹、一匹のかわいらしさに目をとられ

一つの作品としての迫力に欠ける。

一匹でも画面を造形的に作る世界を考えては。

(評) 藤島清士

坂本正子「五月の恋」独特ののびのびした個性があるので、これまで多くと楽しむ自分のかきたいものをおもいきりよくいてゆかれる良い。安藤弘「海辺のトルソ」

白と黒は大変美しい効果もよくある。絵のテーマはよくある

という感もする。今一つ新鮮味に欠けた、次回に期待する。大野重夫「飛(山腹)」大作で力作だと思う。自然の風景(木)を単純化

し構成するのは大変むずかしい。

色彩は少々重たく感じられた。次回に期待する。長見有時「使い捨

てガスライター」白・黒が大変美

い印象をうけた。このまま数多く制作すると自分の世界が深まつてゆくと思う。

(評) 金田憲生

「羽生」一見顔の表情は

引き締まつて居る様に見えるが、髪の扱いは、単純化すぎた。後頭部は髪の中でも緊張感の有る様に。

(評) 佐藤守男

「モウちゃん」静かに落

ち着いた露岡氣は作家の真面目さが滲んでいる更に一步進み造型的表現にまで足を踏み込んでと思

(評) 紀世安

「O教師」がつりとした

作風だが、細部は少しモデルに忠

実になる様な意識が強過ぎて彫刻

としての良さがマイナスされる様に思われます。田中隆行「子を抱く母」母と子の一体化が成功して

いる。しっかりと大地に立つ足に

緊張感が漲り母の強さと愛を感ず

る。池田謙「トルソII」黒御影石

を独自の道具の扱いにより抵抗も

なくやってのけている。肩から胸

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出ていても張りが無く、腹部もしおりしたデッサンが無い。内部の力が外に働く程の力が欲しい。徳田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のはかりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のはかりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりとあります。

(評) 山本一也

仲井靖典「女」手首などの部分的難を除くと、このボーダーによる人

体のプランの動き、流れをどちら

た表情のある閑静な作品。加藤公一「舞(I)」木の扱いと形態に

対する感覚の良さがうかがえ、今

後の出品が楽しみ。中田千尋「清

風」丹念な鑿あとから木と対話せ

んとする作者の姿勢が見られるが、

やや心象に流れではないか?樹

下和子「女の首」上下に引き合

う。渡辺夫「のぼるぼ」牛の舌

の様な石が二個づつ三組有機的世界の動めきは、しかめ面しないで

見れるおおらかさがある。今後に期待。田中勝宏「トルソ」胸が出

ていても張りが無く、腹部もしお

りしたデッサンが無い。内部の

力が外に働く程の力が欲しい。徳

田幸次郎「母と子」のみの切れ味はかなりさえております。一本のは

かりりと

40周年展示と云う事で作品数も増え、質も昨年より向上しました。材質では木彫に秀作が多く、石も良質な作品が多くなったと思います。作品の中でも特に印象深かったものからあげてみると、橋本論 佳作賞「立棺 (*Contrapunctus*)」である。大胆な肉付けで細部を省略し、躍動感がみなぎっている。表情がひきしめられているので左右の対に

の憧憬』アフリカ彫刻を思わせる素朴さを含みながら確かな構成と素材の扱いにセンスの良さをうかがう。川辺由紀『トルソ』大理石の中に独自のフォルムを造り出し、内部的表现を独自のものと思うが、量面の弱さが目につきコスチューム様の模様はさらにマイナスになつてはいないか。

(評) 小野寺紀子

清水正之『木彫』が秀作である。は、しつかりした姿勢で追求した良質の作品となつていい。ただもつと柔らかさや張りを表現していかないと硬質のまま終つてしまふ。小林秀史『はたち』は、乾漆で安定感ある佳作。少々頭部のバランスがよくないが、横などしつかり考えて作つてあり伸びやかである。首の作品の中では

た作品。縱に分割され拗れて集合するマッスで、内部に引き合う力より拡散する力がやや強いのでは？森川浩「首」観念的な感があるが炎やかに卒なくまとめられた首。佐藤雅奉「無想V」上半身では迫力あるマッスが組れているのに下半身は特に立ち脚が目にっこく。川名義夫「Art staff KAWANAI」骨格のある像像で台も配慮されているが、一様に擦られた表面処理が結果的にソフトフォーカスになり惜い。又内削の効も今後との課題か？篠原康「孤影」ズツシリと不器用を装つたユニークな大作、今後の展開を期待。橋井裕「無石へ

小山澄子「春風」街いのない仕事
ぶり。台と首との接点の治まりをつけた作品の角度を定めたい。この点は他の出品者も配慮を。『木戸春樹』「コンボジション」堅い密な木の質にユニークなフォルムを与え

審查所感

工芸部審査委員長
会員田部隼夫

工芸部門はここ数年躍進的に搬入点数を増やし、工芸に対する感心と理解が深まって来ております。今年は、どのような作品ができているか期待を胸に一点一点手とり見に行きました。この作家は昨年はどんな作品であつたかすばらしく良くなつてい

品よりは、思い切った冒險とも言える作品には今後の發展を願い選させたりし、全道展の工芸は、漸新で見ていっても楽しいと思えるようにして行くべき努力をしてわります。

(譯)伊藤 寿
芸部審査委員長　田部隼夫



〈H#〉

高野陽子「洞韻一奏」道新賞、ひ
も造りによる成形法は、作者の意
志を表現できる芸術的技法と云ふ
が、作者の意気込みとエネルギー
を感じさせられる佳作である。
三好美和子「響」獎励賞、素材の
布地を駆使して色彩豊かに表現し
た現代的作品。中秋勝広「作品III
新会員」、铸造の特質をぐるみに生
かし動きのあるフォルムの造形作
品。越谷聖子「作品一七」ガーデ
ンの素材を通常と逆の工程で色を抜
く方法で簡素化された色彩、立体
造形としてはこれからの課題。加
藤裕「作品」フォルムの独自性や
新しい表現に訴えるものが欲しい
井上妙子「至パー卜3」成形は手





A black and white photograph capturing a scene in a gallery. In the center-left, a woman in a light-colored, possibly white, dress stands facing a large painting of a landscape. She appears to be reading a label or information card placed on the floor in front of her. To her right, another person is partially visible, looking towards the same painting. Further down the hallway, two more individuals are walking away from the camera, their backs to the viewer. The walls are lined with various framed artworks, including what looks like a portrait and some abstract pieces. The lighting is bright, typical of an indoor exhibition space.

「在京作家全道展」 大同ギャラリー 後藤事務局長の姿が見える 6/27

ることによって強烈な主張ができる。山崎澄恵「夕映えの花」前作に比べ画面のパックの表現は、深みがあるが花のポイント等の構成に留意。閑川菊代「光陰」曲線を多用した構想でのびやかに表現されて、画面づくりを意識しない色調。宮原ミニユキ「草原にて—秋—」女性らしい柔かい感覚で織つているが色調構成と糸による曲線の流れは弱い。渡辺邦枝「作品38—B」材質感をよく活用してタビスリーーに仕上げているが糸の自由性、可変性を追求。伊藤啓子「Form part1」色彩の配分に考慮、叙情的なイメージをもつた作品で今後も意欲的な造形に挑戦へ。鳴海俊也「護」鍛金技術を駆使し直轄で力

いる。福井信一「路」記念賞、作者の意図が力強く構築された明快な作品である。今後の努力を一層期待したい。東堂亮之「過去から」のメッセージ「新会友、近年追求

岡恵理子「*晚秋*」深まる秋の心象をそつなくまとめている。今後の意欲に期待したい。井田享二「芭作者の主張は感じるが、包んでい

とめ上げた有形にして、心配りが見られるが、さらにテーマに力強く迫りたい。立川岩治「唐木象嵌大円杯」象嵌された繊細な模様が美しい。年々向上している作品である。松

きといた繰り込み作品。用の根
念が明確である。岩崎貞子「茫茫
無難にまとめているが、内面から
の強さを引き出して次の飛躍を」
(評) 関原

強い、ひさびきの力作。松原成樹「Budding」昨年の作品とまつたく違うが青磁の表についている文様が景色としておもしろい。尾形香三夫「知・情・意」計算のゆ



では、新たな展開が生まれてくるのでは……。三浦千代志「律(黒い壺)」下部と上部の形態が効果的につながっている。口のうねりの表現の仕方によつては、全体の

対象に置かれた花が、どう変わつていくのか楽しみである。田中和子「冰原の夕映え」単純な形を集めながら、冰原を構成したのは理解できるが、その量と配置によつ

江　「白い花」新会友、作者の強い
感覚的表現で、見る者に心配りが感じられる。庄司
である。笛島和子「野明け」年々
造形的な芸術性が見られる。左右

が残念である。高間裕子「刻」刻みされた様に、大胆さがあつて良い。秋田清陶「連弧文壺」も、うらやましい支撑である。細

しているモチーフである。過去を暗示させた方形が、どのように変わっていくのか楽しみである。風間ゆかり「群像」テーマの持つイメージと面を切り取る仕事のつな

緑の空中庭園に囲まれた ギャラリー

 大同ギャラリー

札幌市中央区北3条西3丁目
札幌太同生命ビル TEL. 241-8271 内88

評
佐藤

靖

自由な造形能
裕淑「夕涼み
まりが美しい
小さな形が、
効果的である

技術もしつかう全体の雰囲
ちょっとした
ても良い。岩
モラスを巧み

吉田赳夫 細
素直に生かし
いねいである
作者の鉢に取
く伝わってく
したい。吉田

からまり合がある。もつされても良い金属の持つ地する可能性を

緊張感がもつ
堀田純一「十
樂しきがある
に期待したい
接しながら他

態度が好ましい。
流れ出る緑
地肌の違う
全体とマッチ

に暗示させて、
間成志「囁く
に破綻が部分的
に生きを生かしな
かりしている。

「絶対」直線的な
としている。仕上
る。内野正樹

曲線に、作者と、強い画面を秘めた作品で、山田育郎

と強まるのである。さらに今後「一字紋花器」鏡



40周年記念全道展総会 欠守次長の会計報告に真陰に取り組む出席会員。市民ギャラリー。6/14

仲間のたより

- 久しぶり柳葉の舞う初夏の札幌はさわやかで、そして楽しく、全道展審査、在京作家展と、この度はいろいろな案で全道展が身近に感ぜられうれしく思つてます。在道の方々はこれから巡回展とづくわけだ。たまに行つて勝手なことを言い、お手伝いもできず申訳なく思つています。でも又たまに少くから見えること、というのもあるのかもしれないとも思つてます。昨日は在京の会員が集まり報告会のようことをしました。後藤さんの御冥福を祈るばかりです。

● 東京 岸 葉子
例年通り、今年も全道展の開催にあわせて帰社するつもりでいましたが、急に東京で個展をする事になつて帰れません。年に一度金道展の熱いふれあいを楽しみにしているのですが、まったく残念です。個展も無事に終つて、送つていただいた画集を見ながら、盛大であつたろう会場を想像しています。

● 水戸市 啓
七月十五日、銀座ラオンで東京支部の集まりがありました。後会、審査、在京展に出席した大谷、岸、菅野、渡辺、小林各会員から種々情況報告があり、特にこれからの全道展に就いての話し合いが活発にされました。又、小川マリ創立会員が八十四才の高令でありながら元気には大変な収穫でした。

● 東京支部 渡辺 真利
四十周年記念展の模様は太谷さんによく盛りだされたうどおろこびます。会務委員諸氏の努力がみのつたのだと思います。在京作家展も評判よかったです。

● 北海道で生まれ育ち住んでいた私には夏はすさまじい季節だ。私はまだ子供のようになつたまになつてしまつたが、作曲だつたら耳だけで生きている

● 川崎 大高 操
七月十五日、風不死岳、雪山が窓から見えます。空には夏の雲が見えます。そして人々が歩きます。ふところの深い自然の中で、人々が生きています。印度の音楽を混ぜながら、絵筆を握っています。焼酎を友にして。

● 札幌 竹岡 羊子
後藤庸也さんの訃報には、ただ驚くばかりであった。人間はやつぱり一人で死んで行くのか、と思つた。いつ何が起きるかわからない時代、加えて複雑な高齢社会の現状が見えます。ふところの深い自然の中で、人々が生きています。印度の音楽を混ぜながら、絵筆を握っています。焼酎を友にして。

● 恵庭岳、風不死岳、雪山が窓から見えます。空には夏の雲が見えます。そして人々が歩きます。ふところの深い自然の中で、人々が生きています。印度の音楽を混ぜながら、絵筆を握っています。焼酎を友にして。

● 札幌 米澤 邦子
四年目の個展を了してホットとくちんの毎日です。小生こと稀代の惜夫である、記念画集の豪華なにはおどろきました。東京支部 展覧 真利

● 札幌 大地 康惟
そのせいで盛夏でも以外と室内は涼しい。夏らしい日が多くなりました。この間節には私のアトリエが暗くなりました。周りの木々が大きくなり光を防ぐからです。

● 札幌 大地 康惟
東久留米市の創立十五周年記念として、公民館が建設中ですが、その前に市民のための記念碑設立を依頼され、制作に頑張っております。市民に愛さ

れる瞬刻でありたい。しかも、モニマー

タルな要素をどのように表現したらよいのかと脇心しているきょうの頃ですか。

● 東京 北村 善平
今年は、会期中に札幌に帰ることが

出来ないが何より楽しい日々でした。

● 歌志内 本城 義雄
常日頃考えますに、人生いつ何時終つてもやはり悔いは残るもので。どんな状態においても終るという実事は悲しさひとことです。私も年齢が増すばかり

で先の方を一向に見ていなかつた事に付きました。作品関係ばかりで無く人間関係も「かさ」がもつと増すように生き

● 札幌 鐘路町別保田の出方だけ)女房殿が大声を上げる。「私のいいケツが無い!」と、そして新しいのを欲しいと云う、もはや彼女は私にどうでも害獣でナネ(女房と同じく)ヤツバ

シ。

● 現在、9月の父子展に向けて、50号

の絵を描き始める所です。日頃あまり積み重ねのない私にとって、今が、がんばり時です。

● 後藤先生のこと……昨年の受賞者招待

の会がさりげなく後の飲食の再、大きく両手を開けてジェスチャーしていた姿が特

に目に焼きついています。残念です。

● 札幌 鐘路町別保田の出

野の街頭はまぶしい照明と、人だから

記念展の楽しい夜でした。

● 聖日もう一度会場へ出向いて、自分の

作品以外をみることにした。やはり会員

の作品はいいな……。

● 札幌 竹岡 羊子
なんとワイワイおしゃべりしたり、ビ

トルをのんで氣づいたら午前二時すぎ薄

野の街頭はまぶしい照明と、人だから

記念展の楽しい夜でした。

● 札幌 鐘路町別保田の出

野の街頭はまぶしい照明と、人だから

記念展の楽しい夜でした。

● 札幌 鐘路町別保田

個展グループ展案内

- 秋山沙走武 第14回彫刻家集団「北斗会」展 7/25~7/31 南館丸井4Fギャラリー
- 秋山沙走 肉個展 10/中旬 釧路 企画展 11/中旬 札幌 エルム画廊 企画展
- 渡辺真利個展 8/1~8/6 南館丸井今井4Fギャラリー
- 大友一夫油画展 8/3~4 平取町中央公民館
- 沙流川美術展 9/7~8 平取町中央公民館
- 三箇三郎個展(北の季節) 8/5~8/10 東京銀座 文芸春秋画廊
- 第7回彫刻家集団NENDY展 8/12~8/17 大同ギャラリー(田中隆行他)
- 菅野充造個展 8/19~24 時計台ギャラリー・札幌
- 油絵小品展 8/27~9/1 照光館ギャラリー・南館
- トルコ共和国へ旅行 箱根寿保 8/26~1ヶ月
- 藤井正・高志父子展 9/12~アートギャラリーさいとう・札幌
- 森谷 一 個展 9/30~10/5 時計台ギャラリーC室・札幌
- 木村訓文個展 10/3~10/8 アートギャラリーさいとう・A室・札幌
- 松隈康夫個展 10/7~10/12 大同ギャラリー・札幌
- 野本 醇個展 10/14~10/19 時計台ギャラリー・札幌
- 騎の会(貝象彫刻グループ展) 小野寺紀子・川名 義美・西山 昇・今谷 孝・竹林 昌子・池田 啓子 10/14~10/19 時計台ギャラリー・札幌
- 画廊企画個展 一原有德 11月 ヒルサイドギャラリー・東京 1月・NDA画廊(画廊企画展)札幌 9月第21回ソウル国際版画交流展招待出品予定。
- 本田明二彫刻展 11/11~11/16 時計台画廊・札幌
- 岸本裕躬個展 11/18~11/23 時計台ギャラリー・A室・札幌
- 宮西詔路個展 11月中旬 丸井デパート南館支店
- 庄司光江個展 11/21~11/26 石井画廊・南館
- 原 義行個展 11/26~12/1 大丸画廊・札幌
- 押川 清個展 11月末 西武百貨店ギャラリー・旭川
- 佐久間恭子個展 12/2~12/8 浜町ギャラリー・室蘭
- 棚内忠男個展 12/9~12/14 時計台文化会館A室・札幌
- 橋本三郎個展 1月中旬予定 高島屋・東京
- 竹岡羊子個展 3/3~3/8 文芸春秋画廊・東京

全道展に関するお問い合わせは次の所へ。
全道展事務局/〒061-01 札幌市豊平区
清田2-1-5-6 ☎ 011-882-3384
久守昭嘉
●北海道新聞社事業局文化事業部全道展
担当/〒060-91 札幌市中央区大通西3
丁目 ☎ 011-221-2111

全道展・図録・質問など
の意見要望・ZEN等へ

正個所年記念全道展画集訂

(出品作品)

P 31	竹内 豊	展示作品は「ねむりの風景」130F掲載作品は「山湖」50F巡回用
P 20	佐々木悦子	浅野武彦 右側が上
P 100	佐久間俊雄、佐久間留美子	入れ違い
P 87	佐々木悦子	佐々木悦子 右側が上
P 120	浅野武彦	右側が上
P 59	藤島清士	土門絵美 右側が上
P 133	田中和子	作品うら焼き
P 87	芝沢詳子	田中和子 作品逆さま(天地逆)
P 124	本田 泉	左側が上
P 155	(座談会)	土門絵美 全道展40年
P 160	上右写真	上右写真 国井登一 滉
P 170	左上 野本淳一	右下から6段 天馬正五郎・天間正五
P 161	右上から6段	玉二郎
P 196	出席者名	右下から3段 谷口王次郎・谷口
P 200	(年譜)	玉二郎
P 196	奨励賞	佐野忠雄・忠

P 208	谷聖子より	真共)脱落 P 209 第39回巡回展 茅室・茅室泰弘 渡辺猪祥より
P 220	工芸1	函館宮西 詔路より
P 061	1~21	山羊の人・山羊と人
P 061	21~22	札幌越
P 208	絵画77	山羊の人・山羊と人

P 208	谷聖子より	真共)脱落 P 209 第39回巡回展 茅室・茅室泰弘 渡辺猪祥より
P 220	工芸1	函館宮西 詔路より
P 061	1~21	山羊の人・山羊と人
P 061	21~22	札幌越
P 208	絵画77	山羊の人・山羊と人

第27回学生美術全道展

会場 搬入期 10月15日(火) 入場料 札幌市民ギャラリー
彰式 北海道新聞社大通館 A B会議室 (7F)
表題 札幌市民ギャラリー

搬入は午前10時~午後6時。応募用紙は、有名画材店又は〒060-91
札幌市中央区大通西3丁目北海道新聞社事業局文化事業部全道展係へ返信
用切手60円を添えて請求下さい。

会場搬入期 10月15日(火) 入場料 札幌市民ギャラリー
彰式 北海道新聞社大通館 A B会議室 (7F)
表題 札幌市民ギャラリー

搬入は午前10時~午後6時。応募用紙は、有名画材店又は〒060-91
札幌市中央区大通西3丁目北海道新聞社事業局文化事業部全道展係へ返信
用切手60円を添えて請求下さい。

- 総会、審査会議をもつてきべき時間で切り上げられないか。本番の審査に入る時はへとへとで、三日間、体力の余裕のない者はつき合いされない。
- 特別会費での大型記念図録、その労多とするが、肝心の作品写真が墨書きにて新聞の写真よりも見にくいくらいである。印刷屋か、どちらがまづかったのか分からないが、次回からはもっと神経を使つてほしい。

- 40周年記念の図録にさわしい内容に感激しました。座谈会は勿論特に懐かしい写真に目をうばれました。
- 全道展の会場についての要望、第一室は、入場してすぐなので疲れないが、だんだん見に行くうちに足がつかなくなってしまう。しかしどこにもソファがなくて困った、という声を聞きます。昨年はあったそうだし、近代美術館は、かななりソファを所用に体むところを作ってほしい。老人もけつこう入っているようなので次回にはご配慮下さい。

札幌 坪野 秀子

編集のみなさまいつもよい御編集、

オーク画材

札幌時計台
ギャラリー〒060札幌市中央区北1条西3丁目
札幌時計台文化会館 ☎ 261-8971

洋画・日本画材料

大丸藤井
セントラル

札幌・南1西3